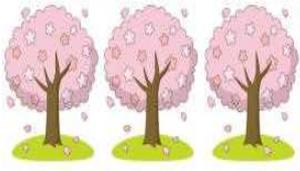


高取小だより

令和7年5月30日



三本桜

第9号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
5月の目標：けがを予防しよう

いざ、運動会！

運動会前日となりました。今年度も昨年に続き、3部に分けての運動会となります。子どもたちは、ゴールデンウィーク明けから短期間ではありますが、全力で準備をしてきました。後は明日の晴天を待つばかりです。

保護者の皆様には、観覧席を用意できず、やや窮屈な中での観覧となりますが、子どもたちの演技に温かい声援をよろしくお願いします。また、観覧にあたっては譲り合いなどご協力をいただくことがあります。どうぞご理解いただきますよう、よろしくお願い致します。



【1年生】



【2年生】



【3年生】



【4年生】



【4年生】



【5年生】



【5年生】



【6年生】



【6年生】

親子で表現力を上げる

普段の日常会話でも、読解力を鍛えることはできます。まずはきちんと文章にして会話をするように心がけるのです。特に子どものいる家庭は意識してみしてほしいと思います。

今の親たちは、先回りして手取り足取り、子どもに過保護に接してしまいがちです。たとえば、子どもが「あれは？」と言うだけで、母親がすぐに察して、「これね」と持ってきてしまいます。これでは結果的に、子どもは表現力も身につけません。

親はグッと我慢をして、「何がほしいの？ ちゃんと文章にして言ってごらんさい」と促すべきです。「お母さん、紙」と子どもに言われたときにも、言わんとしていることがわかっていたとしても素知らぬ顔をして、「紙がどうしたの？ トイレットペーパーの紙なの？ それとも落書きをする紙なの？」「何の紙がほしいのかちゃんと言ってみなさい」と促してみましよう。

子どもは、文章にして会話をする必要がないとなると、楽な方へ流れます。それでは自分の表現能力が落ちていきますし、そのまま読解力も落ちていきます。表現することと読みとることとは、表裏一体の関係なのです。

社会に出るあなたに伝えたい なぜ、読解力が必要なのか 池上彰 著 講談社 出版 より

「家庭→学校」「親→先生」と置き換えて読みました。私が中学校で担任をしていたときは、およそ40人の子どもを相手にしていますから、逐一こんな丁寧に対応しているわけにはいきませんでした。中には、単語をブツブツと並べるだけで、なかなか文章で表現できない生徒がいました。そんなときは大なり小なりイライラして、先回りをしてその生徒の言葉を最後まで聞かなかったり、推測をして返答をしたりして行動に移していました。ですがこれは、伝える力を身に付けさせる訓練ですから、ぐっと我慢をしてわからないふりをし、粘り強く付き合っただけだと深く反省しています。



理科室の机はなぜ黒い？

理科室で実験をしていた6年生から質問を受けました。「この机はどうして黒いんですか？」 私はその理由を知らず、「汚れが目立たないような色にしてるんだよ」などと答えました。後日、理科が専門の教頭先生に確認すると、実験で使う薬品の多くが、白い粉末や透明の液体なので、もし机にこぼしてしまってもわかりやすいよ



【理科室の机】

うに、黒にしてあるのだとか。また、理科室で先生が白衣を着る理由は、①薬液から自分の身を守る②色について説明するときスクリーンがわりとなる③子どもに事故があったとき、とっさに白衣を脱いで保護するといった理由からだそうです。